

選穴のまとめ

	治療点	効能	解説
足	足三里	後天の気を補す	チャート参照
	京骨	膀胱抑制点	
	右きょう谿	胆興奮点	
	右解谿	胃抑制点	
腹	中完	B群、脾を補す	後天の気を補す
	天枢	C群、消化を促進	
	中極	膀胱募穴	
手	三陽絡	三陽経を補す	チャート参照
	大陵	心包を調える	
	右神門	心を調える	
足	委中	腰背を司る	
腰背	肝俞	基本全良導絡調整穴	
	脾俞	基本全良導絡調整穴	
	腎俞	基本全良導絡調整穴	
頭肩	肩井	C群	頸肩部の緊張を緩和させる
	天柱	B群	
	百会	B群	良導絡を開く

ここでは良導絡療法の基本とその臨床応用例を紹介したが、この療法に関する詳細は中谷義雄と山下九三夫の共著「Ryodoraku Acupuncture」、兵頭正義による「Ryoudouraku Treatment」、本誌1995年3月号における大磯明雄氏の卓越した論文を参照されることをお勧めする。後藤先生は良導絡について「Bridging Two Worlds」という題名で執筆され、完成に間近となっている。これは先生の長年の生徒であるクリス・マックアリスターとニック・キリアクーによって翻訳されたものである。最後に、鍼灸の入門者である私を優しくご指導して下さい。後藤先生に対し感謝の念をここに表し結びとしたい。

投稿募集

NAJOM では積極的な投稿を期待しています。NAJOM は英語圏に於いて、日本鍼灸の真価を問う絶好の場です。我もと思われる鍼灸・指圧の同人諸兄、一例・症例報告、古典の新しい解釈と応用、診断法等々、奮って投稿して下さい。

投稿は原則として日英両語にてワープロのソフト・ハードコピーをお願いします。(ソフトはアップル・ASCII・MS-DOSのフォーマットで)

NAJOM では日本語のみの投稿者には英訳のサービスをしております。(400字詰め原稿用紙1枚につき\$20~25の費用がかかります。)

尚、招待原稿以外は、投稿は同人会員に限らせていただきます。

投稿についての問い合わせ又は打ち合わせは：

編集長、Stephen Brown まで

542 N.E. 117 St., Seattle, WA 98026 U.S.A.

Phone/Fax: (206)365-3563

笑わせ医者

高松文三

友人に医学博士だが、医者をやるのが嫌でニューメキシコ州の大学で講師をしている変わり者がいる。この友人が、昔私に話してくれたある医者の話が、今でも忘れられない。

何でも、その医者の所は患者さんがいつも一杯という。ところがこの医者は友人にいわせると、ほとんどヤブに近いという話である。診断が正確というわけでもないし、処方が的確というでもない。さりとて近頃流行のオルターナティブ・メディスン(代替療法)を使いこなすという訳でもない。しかし彼の医院は忙しく、治療率も高く、とにかく評判がよいのである。

不思議に思った友人が、実際にその医院へ行ってみてやっとな得がいったという。要するにこの医者は、患者さんを笑わせる事にかけては天才らしい。どんな深刻な病気に悩む人でも、この医者にかかるについ陽気になって、しまいには笑い出すというのである。それはもう名人芸で、顔を見ただけで笑ってしまう患者さんが多いというのだから、余程の福相なのだろう。

この話を聞いたのが十年以上前の事だ。その時はその場の笑い話として大して気にもかけなかったが、最近ときどきこの話を思い出す。この医者ヤブどころか、ひょっとしたらけた外れの達人ではないかと思うようになった。

的確な診断を下せて、的確な治療を施せるのが名医の条件であろう。おそらく医者たるものは、皆そうあることを目指してやっていると。が、それ以前にもっと大切なことが有りはしないか。例えば病人を安心させることである。

私は現代医学の最大の欠点は、病人に安心感を与えないことだと思う。それに加えて、やたらと恐怖心をあおる傾向が強い。一般向けに書かれた医学書等を見てもそれがよく分かる。読めば読むほど気が滅入る。安心させてくれる様なことは、一つも書いていないのだ。むしろ恐怖心が募る。患者さんを通して聞く医者の話も、大同小異である。ホッとするようなことは言ってくれないらしい。(最も、当方に来る患者さんは普通の医者に満足していない人が多いので、無理のない話であるが)

恐怖心というのは心に強烈な印象を残すので、それがそのまま現実化することが多い。いつもそうなると思っていれば、そのようになるのは当然である。これも立派な医源病と言えないか?

現代医学は基本的に「脅しの医学」である。患者は恐れおののき、医者の指示に従う。私は現代の医療体系を否定しているわけではない。手術が必要な患者もいれば、薬で九死に一生を得る場合もある。しかし実際に患者には、余り選択の余地は与えられていないようである。これこそが最良の対処法であるという態度があって、その他の療法に対しては理解が少ないのが実状のようだ。

患者の側にしてみると、こういう態度は非常に息苦しいものである。人間の体は皆一様に出来ていないし、ましてや心の問題などが関わってくると、とうてい一種類の医療体系で処理しきれぬものではない。

東洋医学は、何よりも風通しの良いものであってほしいと私は願う。病気の恐怖で窒息状態にある患者さんに、こんなに楽な医療もあるんですよという一種の風穴(逃げ道)を開けてあげるのが東洋医学者の基本姿勢であろう。病人は安心を得ることで闘病力を増加する。そして自分の病気を笑い飛ばせば最高である。事実、ノーマン・カズンズの様な有名人の例を出さずとも、そうやって病を克服した人は数知れずいるはずだ。

そんな意味で冒頭にあげた「笑わせ医者」は、実は大した名医であったのだと確信するのである。